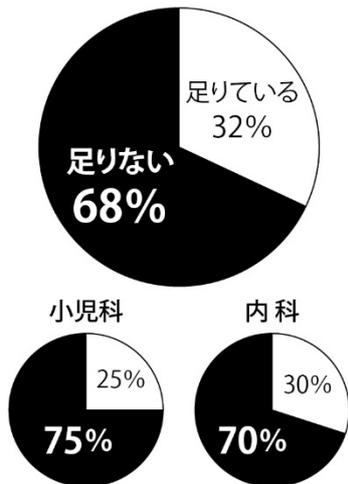


インフルエンザワクチン 小児科 75%が不足

●会員緊急アンケートを実施 約7割が「足りない」

協会会員から「インフルエンザワクチンの入荷が遅れている」、「協会として供給の実態を調査してほしい」との要望が寄せられたことを受け、協会地域医療部は、11月16日に会員3,782人（小児科、内科等）に「予防接種に関する緊急アンケート」をFAXで送付し、11月21日までに都内851件の医療機関から回答を得た（回収率22.5%）。

図1 インフルエンザワクチンの在庫(全体)



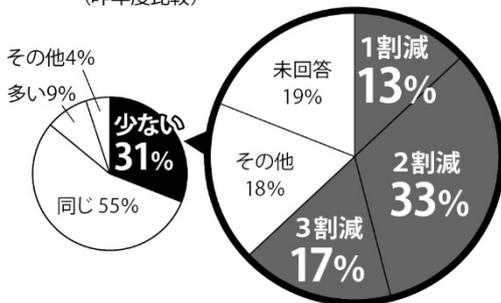
集計の結果、小児科の75%、内科の70%が「インフルエンザワクチンが足りない」と回答、全体では68%が「足りない」と回答した（図1参照）。

昨年度の納入量との比較では、「少ない」が31%、「同じ」が55%だった。また、「少ない」と回答した会員にその割合を訊いたところ、「2割減」33%、「3割減」17%が上位を占めた（図2参照）。

●回答の7割「例年通り接種できず」

インフルエンザワクチン接種希望者への対応では、「ふだん診ている患者を優先し、新規希望者は断っている」24%、「定期接種の高齢者を優先している」17%などが続いた。何らかの問題があるとの回答は7割に及び、「例年通り接種できている」は29%だった（図3参照）。

図2 インフルエンザワクチンの納入量 (昨年度比較)

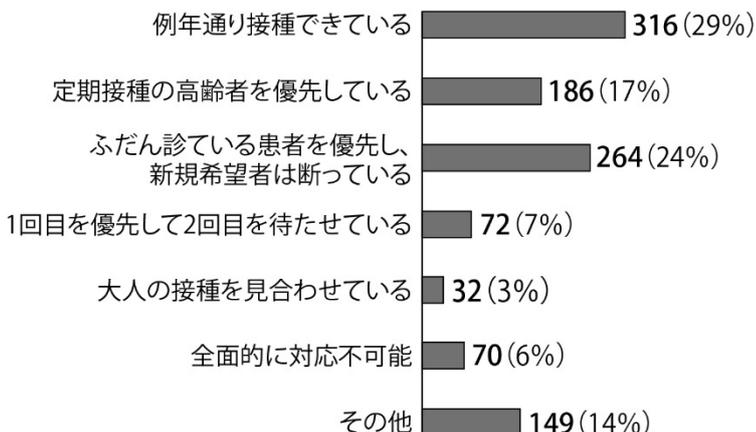


●「小分け納入」で患者対応に苦慮

インフルエンザワクチンの納入状況では「小分けにされ一度の納入量が少ない」が70%、「発注しても納品されない」が18%、「発注後すぐに全量が納入される」は12%だった。会員からは「小分けでしか納入されず、接種希望者に電話をして断った」「納入の目処が立たず予約を停止させた」など、患者対応に苦慮する声が数多く寄せられた。

図3 インフルエンザワクチン接種希望者への対応 (複数回答：件数)

※調査期間：2018年11月16日～11月21日



●ワクチン不足を繰り返すな！

インフルエンザワクチンの供給不足は昨シーズンも発生し、今シーズンもワクチン接種を希望する国民が接種できない事態に陥っている。東京保険医協会は国民のいのちと健康を守るため、11月26日、国の責任で「脆弱なワクチン供給体制」の抜本的な改善に取り組むことを求める緊急要望書を厚生労働大臣宛に提出した。